様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　6　月　10　日現在

機関番号：23501
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2008～2011
課題番号：２０７３０３３９
研究課題名（和文）　米軍基地での環境問題に対する市民活動と地域社会
研究課題名（英文）　The civil movements and communities against environmental problems around US military bases in Japan

研究代表者
朝井　志歩（ASAI SHIHO）
都留文科大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：７０４０５０９１

研究成果の概要（和文）：本研究では、軍事施設に起因する公害や環境問題の解決に取り組む市民活動や地域社会について、聞き取り調査や参与観察などの質的調査の手法によって解明することで問題構造を明らかにし、解決策について考察した。具体的には、厚木基地と岩国基地での基地騒音問題と、横須賀基地での原子力空母母港化問題について調査を行い、研究成果を学会で発表し、著書や論文として執筆した。

研究成果の概要（英文）：This study takes up problems of the civil movements and communities against environmental problems around US military bases in Japan. The research makes clear that a lot of people and public offices have tackled problems by means of a field work about the problems of the aircraft noise around Atsugi base and Iwakuni base, and the problems of the deployment of nuclear-propelled aircraft carrier of US military in Yokosuka base.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：環境問題、市民活動、米軍基地、基地騒音、原子力空母母港化、リスク、厚木基地、岩国基地、横須賀基地

１．研究開始当初の背景

(1) 2007 年 9 月に提出した博士論文では、在日米軍基地の騒音問題をテーマとし、具体的事例として厚木基地と岩国基地、ドイツの基地の三つを取り上げた。本研究の目的の一つは、博士論文で扱った厚木基地と岩国基地での基地騒音問題の追跡調査を実施することである。

(2) 新たな事例として、横須賀基地での原子力空母母港化問題に着手することも、本研究の目的の一つであった。2008 年 9 月から米原子力空母ジョージ・ワシントンが横須賀基地を母港としたことで、原子力空母による放射能事故を危惧した横須賀市民による住民投票運動起きていたため、その実状の解明をするために研究に着手した。

２．研究の目的

(1) 軍事施設に起因する公害や環境問題の解決はいかにして可能なのかについて、問題解決に取り組む市民活動や地域社会の取り組みについて調査をすることで、問題構造を明らかにし、解決策について考察する。

(2) 在日米軍基地という軍事施設での公害や環境問題という、これまで社会学の研究対象とされることの少なかった問題への実証研究を行うことで、国防や安全保障といった観点だけでは捉えきれない地域住民の被害の実状を解明する。

(3) 「受益圏・受苦圏論」「リスク論」など社会学での研究蓄積に基づき、被害やリスクに対する住民の認識について分析することで、従来の社会学での議論に示唆を与える。

３．研究の方法

(1) 本研究では、軍事施設に起因する公害や環境問題に取り組む市民活動団体や自治体職員への聞き取り調査や参与観察を行い、質的調査の手法によって活動の実状や被害の実態を解明し、問題構造を明らかにしていった。

(2) 厚木基地の騒音問題と横須賀基地の原子力空母母港化問題については、訴訟が起きているため、裁判の傍聴を継続して実施した。

４．研究成果

(1) 単著として 2009 年に『基地騒音　厚木基地騒音問題の解決策と環境的公正』を法政大学出版局から刊行した。厚木基地での騒音被害の実態や住民運動の経緯、基地騒音訴訟の展開、これまでの基地機能の移転計画と米軍再編計画による岩国基地への空母艦載機移駐問題などについて記述し、これまでの政策の問題点を指摘した。また、軍事システムの持つ性質を環境制御システムとの対比で考察した。

(2) 博士論文で提示した基地騒音問題をめぐる問題構造や規範理論について、より深く考察を展開し、雑誌論文として執筆した。

(3) 環境社会学会の大会で、横須賀基地での原子力空母母港化問題についてその経緯について説明し、住民のリスクや安全についての認識と、国や米軍、自治体などの認識がどのように異なるのかについて考察した学会発表を行った。

(4) 横須賀基地の原子力空母母港化問題について、リスク論の観点から論文を執筆し、学術雑誌に投稿した。現在、査読結果を待っている。

(5) 4 年間の研究成果を全 5 章から成る科研費研究成果報告書として執筆した。横須賀基地、岩国基地、厚木基地のそれぞれの市民運動の展開について記述し、リスク論、受益圏・受苦圏論、公共圏論、規範理論などの観点から考察した。また、巻末には 25 ページの横須賀基地原子力空母母港化問題年表を付けた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 朝井志歩、「基地騒音対策の問題点－受苦の集中的局地化」、『都留文科大学研究紀要』査読有、第 70 集、2009 年、p. 69－88.

② 朝井志歩、「環境問題の解決策をめぐる規範理論　－基地騒音問題から考える環境正義－」『都留文科大学紀要』査読有、第 74 集、2011 年、p. 130-147.

〔学会発表〕（計 2 件）

① 朝井志歩、「原子力空母母港化をめぐる”リスク”と”安全”」、第 41 回環境社会学会大会、2010 年 6 月 6 日、岩手県葛巻町.

② 朝井志歩、「環境社会学から見た軍事的活動による公害・環境問題」第 43 回環境社会学会大会、2011 年 6 月 5 日、関東学院大学.

〔図書〕（計 4 件）

① 朝井志歩、『基地騒音　厚木基地騒音問題の解決策と環境的公正』法政大学出版局、2009 年、全 338 ページ.

② 朝井志歩、コラム「基地騒音」、舩橋晴俊（編）、『環境社会学』弘文堂、2011 年、p. 41.

③ 朝井志歩、『環境総合年表 -日本と世界-』、環境総合年表編集委員会、すいれん舎、

2010 年. 170, 171, 210, 212, 213, 217, 218, 389-393.

④ 朝井志歩、『米軍基地での環境問題をめぐる市民運動と地域社会』科学研究費補助金研究成果報告書、2012 年、全 174 ページ.

６．研究組織

(1)研究代表者

朝井　志歩　(ASAI SHIHO)
都留文科大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：７０４０５０９１